

1人1台端末環境を生かした

特別支援教育における『ICT活用』

～ Society5.0を生き抜くみやぎの子供たちのために～



- 必要な人が
- 必要な時に
- 必要な場所でICT機器を使える。

Society5.0時代※に生きる子供たちにとって、ICT環境は鉛筆やノート等の文房具と同様に不可欠なものとなります。1人1台端末環境は、令和の時代における学校の「**スタンダード**」です。各学校では、これまでどおりの教育とICTの組み合わせによる授業が展開されます。

文部科学省「**GIGAスクール構想**」の推進により、多様な子供たち一人一人の学習状況や興味・関心に応じて学ぶことができる教育環境が実現します。

※「Society5.0時代」とは…人工知能(AI)やビッグデータ、IoT等の技術の急速な進展に伴い、これらの先端技術が高度化し、あらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会の在り方そのものが現在とは「非連続的」と言えるほど劇的に変わる時代。



1人1台端末環境で、

このような授業を目指します



一斉学習

子供たち一人一人の**特性に合わせた学習方法**の提供

個別学習

子供たち一人一人の**障害による学習上、生活上の課題や困難**に応じた授業

協働学習

子供たち一人一人の**考えを共有し、多様な意見を表現**し合う授業これまでの
教育実践の蓄積

×

ICT

=

一人一人の**学習活動の一層の充実**
個別最適化の視点からの**授業づくり**

宮城県教育委員会

宮城県教育委員会では、

県全体で『コミュニケーションツール』の導入を推進しています

県全体で推進する教育向けコミュニケーションツール*¹は、無償のクラウド*²を利用するため、**<すぐにでも><どの教科でも><誰でも>**活用することができます。また、小学部、中学部、高等部で同じアカウント*³を利用するため、12年間の学びの跡が引き継がれます。さらに、1人1台端末環境を効果的に活用することで、学びの本質に迫る学習活動を展開することができます。



- *1 県教育委員会では、Google社の提供する、無償で活用できる「G Suite for Education」を導入します。
- *2 「クラウド」とは…インターネット上に存在するサーバーを利用してデータを処理する形態
- *3 「アカウント」とは…利用者がネットワークやWebサイト等にログインするための権利のこと



“すぐにでも” “どの教科でも” “誰でも” 使えるICT

活用イメージ

- ◆ 学習に取り組む支援機器として
 - ・一人一人の興味・関心や障害の特性に合わせたアプリケーションソフトを活用をする。
 - ・教科書や学習資料の拡大表示、読み上げ機能を活用する。
 - ・情報アクセシビリティを利用し、必要とする情報を取得しサービスを活用する。
- ◆ 学校と家庭をつなぐツールとして
 - ・子供たちの生活支援のために欠席・遅刻・早退等の連絡、学校からの連絡やおたよりの配布、アンケート調査の実施等に活用する。
 - ・緊急時の学習環境の整備としてオンライン会議システム等を活用したホームルームや授業を実施する。
- ◆ 児童生徒一人一人の自立と社会参加に向けたICT機器の活用
 - ・身近なICT機器の基本操作の習得と生活場面での活用の仕方について学習する。

“1人1台”を活用して、児童生徒一人一人がそれぞれの学びやすい方法で学習を深める。

活用イメージ

- ◆ 各種入力支援装置やコミュニケーションアプリを活用しながら、自分に合った表現方法について学習する。
- ◆ 子供たちが見通しを持って学習に取り組めるように、活動内容や作業手順を動画アプリケーションを活用して、それぞれの端末でいつでも確認できるようにする。
- ◆ 学校行事の様子をプレゼンテーションソフトでまとめたり、発表したりする。
- ◆ オンライン会議システムを活用した他校の子供との交流活動を計画、実施する。

家庭でのオンライン学習環境の整備

緊急時等に家庭でのオンライン学習を行うことを想定し、Wi-Fi環境が整っていない家庭にPCやモバイルルーター等を貸与します。詳しくは、各学校または宮城県教育委員会にお問い合わせください。

教職員の研修/学校の情報化

宮城県総合教育センターは、「ICTを活用した授業づくり」に関する研修資料をWebで公開しています(右記QRコードより参照)。また、各学校では情報化推進リーダーが中心となり、学校全体の情報化を進めています。

